

case 1 スクール講師

教えることは生涯の仕事だと思っています。

韓国語を教えるきっかけとなったのは、長崎の県立高校で非常勤講師として教壇に立ったことです。そこで初めて韓国語を教えたのですが、とてもやりがいを感じ、自分の教室をもちたいと思うようになりました。その後一念発起し、去年の春に、JR 諫早駅近くのビルの一室を借りて、諫早韓国語教室を立ち上げました。現在では40人ほどの生徒さんがいらっしゃいます。

教室の運営で苦労する点は、何と言っても生徒募集ですね。生徒募集は、ホームページ、新聞折り込み、タウン誌や電話帳への広告掲載、ポスターの掲示などで行っ

ていますが、広告費をなるべく抑えながら、どう生徒さんを集めるかは、永遠の研究テーマです。

韓国語を教えていて、やりがいを感じるのは、何も話せなかった生徒さんが話せるようになっていくときです。授業では、ホワイトボードの向こうとこちらで電話をかける練習をすることもあるんですが、そこで話す内容が、学習内容が進むにつれて豊かになっていくんですよ。

生徒さんはそれぞれ貴重なお金と時間を使って通っていらっしゃいます。その方たちに、「韓国語が身についた」「教室に通ってよ



諫早韓国語教室
主宰・講師

池上和芳 先生

かった」と思ってもらえるように、分かりやすく丁寧に教えることはもちろん、よりよい授業を目指して、研究・工夫することが大切だと思います。教え方にもいろいろありますからね。やり方を1つに決めず、教科書のほかに、絵カード、地図、ニュース映像、ラジオ音声などを随時使っています。また、授業の研究・工夫と同時に、自分の語学力アップを怠らないことが重要だと思っています。

韓国語を教えることはずっと続けていきたいですし、生涯の仕事だと考えています。そのためにも、力のつく教室だと評判になるように毎日精一杯頑張ります。